

参加者、

青木、秋元、市ノ川、北島、田中、中島、  
桜井、並木、中野(茂)、遊佐、山岡、  
ダスト、  
桑森、佐々木(田中さん友人)

BMW RS Club

July 5, 98

猛暑を逃れて軽井沢から  
万座、志賀高原へ

# かわらばん



下町に本格的な夏の到来を告げる風物詩、入谷「鬼子母神」の朝顔市が始まりました。幾百幾千とも思える行燈(あんどん)造りの鉢が、道路やヨシズ張りの棚に並んでいる様は実に壯觀で、日が沈んで裸電球に灯が燈ると、その灯を受けて打水をした鉢がキラキラと輝いています。お揃いの浴衣を着た親子連れが、買ったばかりの鉢を下げて歩いている風情は、はた目にも清々しさを感じますが、中にはお母さんが茶髪に染めていて、さしづめ現代風江戸情緒といったところでしょうか。これが済むと翌日の夜中からは浅草寺境内でのホオズキ市、いわゆる四万六千日が始まり、千成ホオズキの鉢に下がったガラスの江戸風鈴が、爽やかな音色を立て始めます。そして新打登場とばかりに大川の川開きが始まると、いよいよ東京の街は夏一色となります。

前回は午後からの降水率が20~30%だというのに、好き者(?)いや元気者が6~7人集まって走ったとか。これを思うと我がRSクラブは健在そのものです。そんな訳で前回を休養に当てた我々は今回が久々の顔合わせという事になりました。

集合地の 関越「三芳SA」に向かうと、不景気のせいか道路はガラガラの状態で、既に10人ばかりのメンバーが集まっていました。北さんは前日に受け取ったとかいう、パールホワイトのフクダ限定4気筒車で現れ、我々ビンボウ人のウラメシそうな視線を一身に受けました。

さてその頃になって高速の先の方では雨だという話が出始め、早速に電話で確認をすると、「雨など全く降ってない」とか。意を強くして早速に上里SAへ向けて出発進行。

並木さんがコンチのマフラーを付けてきて、「俺は負けないぞ~」とばかりに頑張っていましたが、我々には音だけが大きくて、マフラーに穴のあいた車と走っているように聞こえました。メーターを初めて振り切ったそうですが、メーターが壊れていませんか?

ここで中野(茂)さんと市ノ川さん、そして秋元さんとが合流しました。前回アクセルワイヤーを切った青木さんが再びトラブリ、メカの北さんが簡単に修理をし、上信越道「碓氷軽井沢」へ向けてブッ飛び開始です。前日までの暑さを忘れさすかのように青空が広がり、僅かに雲が空に浮かび、妙義山を左手に観るころには、中国の桂林を思わすような岩山が林立し、素晴らしい天気、そして爽快なだけに気持ちも和み、とても優雅な気分でした。

ヘルメットを外すと、すぐ近くから鳶の艶やかな鳴き声が耳に飛び込み、思わず辺りを見回しました。中軽井沢を右折して、大きな酒屋の前で休憩をしましたが、木陰に入ると空気がヒンヤリとしています。家を出るまでは億劫でしたが、やっぱり来て良かったと納得の一瞬です。オヤヤ~並木さんのタペットカバーから油が漏れ始めました。よく調べると前日に二日酔いだったフラットの親父が 10ミリのネジを締め忘れたとか。コラッ~本当にしっかりしろ!! 昔のロシアならシベリア送りか銃殺ものです。更に周囲を緑に包まれた軽井沢から白根山へと向かいます。

空気はますます澄み渡り、本当に命の洗濯をしているかのようです。快調に上っていると青木さんから無線が入り、今度はアクセルワイヤーが巻けないと。今回も北さんがキャブを開けて直しました。当分は直らないだろうと思って、私が皆さんに飲み物の調達をしようと山を下ったら、簡単にキャブは直り、私が残されてしまいました。スマセソでした。

心配して迎えに来てくれた山岡さんと2台で山を上りましたが、走る車の数も少なく、シャクナゲの群棲地を過ぎて暫く行くと、周囲には噴火の際の溶岩が転がり、硫黄の臭気が辺り一面に広がり始めました。いかにも火山を上っている感じが分かります。

志賀万座の分岐点から枯れ木の立ち並ぶ崖道を志賀方面へ進み、渋峠のホテルで昼食となりました。旨いものが無いのに代金ばかりが高くて、どこかの猿のように反省させたい気がしました。外気温20度と表示が出ていて、気持ちの良いのは我々のみならず、ホテルのゴールデンレトリバーまでもが心地良げに寝転がって、我々に愛嬌を振りまいていました。

ここから峠を下り途中で90度の左折をし、細いけど舗装の良い道を山田温泉へ向けて走ります。随分と走って気が付くと2~3台の仲間が消えて、山岡さんが蓮池の方まで追って行き、大分してから合流できました。「ヤッパシ全員の無線が必要だね~」という話が出ました。峠を須坂ICへ向かって走ると途中の道端に月見草が咲き、「乳色の空気の中の月見草」という高浜虚子の句が思い起こされました。月見草の別名は「忘れな草」。だからでもないでしょうがインターチェンジに入ってから上信越道の「横川SA」に集合なのに、私と青木さんがウッカリして中央高速へ入るボカをしてしまいました。青木さんは「朝、家を出る前から調子が悪かった」とか。又もやがけね。6時半帰宅。走行距離は570キロの楽しい一日でした。

これで9月までは夏休みです。今日の幹事の田中さん。どうも御苦労様でした。

書き終えて考えたら「月見草」の別名は「宵待草」でした。竹下夢二の絵でも有名でしたね。あまりの暑さにやられたか老化現象のなせるわざです。

